

第1章『未来に向けた事業承継に踏み出して』

大阪府事業承継・引継ぎ支援センター
統括責任者 兼田 亜貴



「やっぱりちょっと寂しいなあ。でも本当にほっとした…」と、車の中で安堵のため息をつかれたのは、とある製造業の社長です。

この社長は、先ほどM&Aによる会社の事業の譲渡手続きを終えたばかりなのです。ご高齢ですが、ご親族は継がず。結局、顔見知りであった同業者へ会社を譲渡しました。そのお手伝いを大阪府事業承継・引継ぎ支援センターでさせていただき、はや3年。これでいいのかと揺れる思いがあり、時間がかかりましたが、ようやく引継ぎの晴れ舞台を迎えたのです。

大阪府事業承継・引継ぎ支援センターは、国が運営する事業承継に関する公的相談窓口です。新規のお客様は年々増加し、現在では何と1年間に新たな1000社を超える企業様とお会いしています。相談内容の半分は、後継者不在やM&Aによる譲渡相談です。

事業承継の相談はとても繊細で、関連する悩みも十人十色。コロナ禍による経営難・資金繰り難、人間関係、借入過多、株式や不動産などの業務に関連した個人資産の処理（税金・相続対策を含む）、はたまたご自身の病気や家族の介護など。気軽に相談できる内容ではなく、冒頭の社長も、眠れないほど悩んでいても、当センターへの相談を決意するまでに時間がかかったといいます。しかし、従業員の生活や取引先を守るため、未来に向けた事業承継をめざして、その一步を踏み出そうと決意されたそうです。「社長、第二の人生の始まりですね。」と私。すると「（第一の人生は）とても満足な人生でした。会社を手放す寂しさもあるけど、事業が継続してくれて嬉しい」と晴れ晴れとした笑顔で応えてくださいました。

当センターの相談対応する専門家は現在15名。ともにゆっくり歩んでまいります。私たちと一緒に、まずは最初の一步を踏み出してみませんか？

